

経済学	1年・前期	1単位	教授 松崎 昇
科目カテゴリー	人としての教養	科目ナンバリング	31220171

1. 授業のねらい・概要

私達は、テレビ・ウェブサイト・新聞等で、経済関連のいろいろなニュースや数値等を見聞きします。でも、事態はいろいろとややこしそうですね。いったい、経済の諸現象は全体としてどのようなになっているのでしょうか。あるいは、そもそも経済とはなんなのでしょうか。

と言っても、みなさんはこれまで、経済についてまとまった勉強はしたことがないだろうと思います。

(また、大きな声では言えませんが、「領域別単位や時間割の都合上とりあえずとろうと思っただけで、本格的にやりたいわけじゃないんだけど…」という人がいるかもしれません。)

でも大丈夫!! 本科目は、そんなみなさんを対象として、とにかくにも、経済現象を超コンパクトに把握することを目指します。この1科目だけで、経済がわかる! (かなあ??)

また特に、みなさんが専修していく看護、ないし拡張して医薬看保介等と経済とのかかわりを、みなさんと一緒に、と言うよりもみなさん自身が、個々人で、またグループで、また全員で、いろいろと調べ、考え、書き、発表し、議論する機会も設けます。後半のEvents、たいへんワクワクドキドキするひとときとなりますお、ぜひ楽しみに!!

2. 学修の到達目標

1. 経済的な感覚がわかるようになれば、しめたものです。
2. 加えて、看護と経済との交わりを、あるいは立ち入って生老病死等と経済とのかかわりをあれこれ考えられるようになれば、すばらしいです!

3. 授業の進め方

前半は講義、後半は各種イベントを行う予定です。

4. 授業計画

1. I 講義	1. Guidance+経済の構造	5. II Events	1. 当日 Report 生老病死と経済
2.	2. 経済の運動	6.	2. PP 発表 医薬看保介等と経済
3.	3. 経済史	7.	3. 会議 例: 混合医療・高額医薬品
4.	4. 世界経済+後半用 Guidance	8.	IIIまとめ+筆記試験

5. 成績評価の方法・基準

Report 点、PP 発表点、会議発言点、筆記試験点等を合計して各自の総点を出します。これを相対評価で割り振ります。例年ほとんどの受講生が A (ないし B) をもらっていました。

6. テキスト・参考文献

教科書は使用しません。参考文献・Websites は必要に応じ随時紹介します。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

経済・社会に関するニュース・記事・話題等に敏感となり、それらを常時随時取り入れる努力をして下さい。

8. 受講上の留意事項

将来みなさんが各種の上級職・管理職・経営者等の立場になるにつれ、国家社会・世界・歴史等に関する幅広い視野・知見が必ず必要になります。本授業はそれにうってつけの科目です。

後半には楽しいEvents が待っています。

先輩達もすばらしいPresentation & Discussion をしていつてくれました。さあ、今度はみなさんの番です!

So let's challenge!!

9. 課題に対するフィードバックの方法

課題終了後に、授業内で解説・講評等する。(場合により、Intra 内で解説・講評等を掲載し、指示します。)

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

「人としての教養」内の「生活文化」内の選択科目です。